

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

[緊急]

営農情報13

台風 10 号接近に伴う技術対策及び トビイロウンカ対策について

気象庁によると、台風 10 号が九州に近づいています。9 月 6～7 日頃に九州北部に最接近することが予想されておりますので、下記の事項を参考に、技術対策の実施をお願いします。

また、トビイロウンカによる「坪枯れ」が 8 月 24 日頃から発生し、その後急激に拡大しています。本年はトビイロウンカの発生量が過去 10 年間で最も多く、今後も、ほ場内で急激に増加し、昨年以上の「坪枯れ」多発も懸念されますので、発生が多い場合は早急に防除してください。

台風時における留意事項

ほ場・農業用施設の見回りは、気象情報を十分に確認し、大雨や強風がおさまるまでは行わないで下さい。また、大雨等がおさまった後の見回りにおいても、増水した水路など危険な場所には近づかず、人命を最優先に事故防止の徹底に努めてください。

1 台風に伴う技術対策

水稻

- (1) 収穫期となっている「夢つくし」は、可能な限り台風襲来前に収穫を行う。
台風通過後に収穫する場合は、落水管理とし、通過後速やかに収穫する。
- (2) 収穫前 1 週間程度のほ場は落水処理とし、成熟期を迎えたら速やかに収穫する。
- (3) 収穫まで 1 週間以上のほ場は、倒伏及び稲体表面からの異常蒸散による「急性萎凋症状」の発生を防ぐため、深水管理を行う。台風通過後の数日間は、ほ場の水を切らさない程度に、浅水管理とする。
- (4) 成熟期に近いほ場で倒伏した場合は、台風通過後早急に落水し、穂発芽を防止する。
- (5) 台風により倒伏が発生すると防除効果が劣るため、トビイロウンカ等の防除は台風前に実施する。
- (6) 倒伏が発生した場合、高水分稲が荷受けされるため、共乾施設は乾燥時間がかかることを想定し荷受けを行う。
- (7) 冠水した場合には、早急に排水を図り、冠水時間を短くする。排水後は、できるだけ新しい酸素を含んだ用水との入れ替えを実施する。

大豆

- (1) 台風襲来前に、雨による停滞水を出来るだけ早くほ場外に排出するため、畦溝や排水溝の整備を行う。
- (2) 台風通過後、大雨ではほ場内に停滞水がある場合は、本暗きよの栓を開けて排水し、再度、乾燥防止のために栓を閉める。
- (3) 表面に停滞水がない場合は、乾燥防止のために本暗きよの栓は閉めたままにする。
- (4) 台風通過後に、再度、畦溝や排水溝の点検・整備を行う。
- (5) 葉焼病の発生に留意し、発生に応じ対策をとる。

2 トビイロウンカ対策

○トビイロウンカ発生状況（8月5半旬福岡県病害虫防除所調査 県内46地点平均）

	本年	前年(多発年)	平年
10株当たり払い落とし虫数(頭)	194.8	59.5	12.3
発生ほ場率(%)	89.1	87.0	47.3

- ・ 10株当たり払い落とし虫数は要防除水準を大きく超えており、多発ほ場の払落とし虫数は約2,500頭のは場も見られる。

〈防除上、注意すべき事項〉

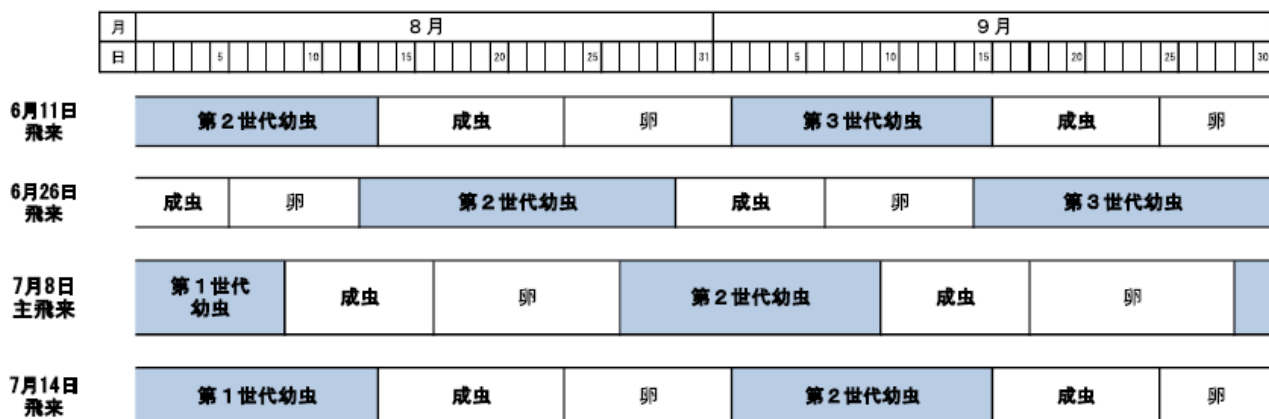
【要防除水準】トビイロウンカ：幼虫の合計数（10株当たり）

・ 飛来後第3世代(9月) : 100頭以上

- ・ 本年は、気温が高いため、早植え水稻では、刈り遅れがないように適期収穫に努めましょう。坪枯れが発生し始めたら、可能な限り収穫を早め、減収の拡大を防ぎましょう。
- ・ 中生品種の「ヒノヒカリ」、「実りつくし」や「ヒヨクモチ」は、収穫前までの日数が長いため、特に発生状況に注意してください。
- ・ 効果の高い箱施薬剤（ゼクサロン剤）を使用していても多発している事例がありますので、ほ場の確認は必ず実施してください。
- ・ 薬剤散布時は、稲体への薬剤付着量向上のため、ほ場に水を張りましょう。
- ・ トビイロウンカは株元に生息しているため、薬剤が株元に到達するように丁寧に散布しましょう。出穂後の液剤散布は、粉剤に比べて薬剤が到達しにくくなりますので、注意しましょう。
- ・ 粉剤、液剤の防除機材がない場合は、粒剤や豆つぶ剤、投げ込み剤で効果の高い薬剤の使用も検討しましょう。
- ・ 無人ヘリコプターや無人マルチローター（ドローン）で防除を行う場合は、散布ムラに注意し、風や日差しの強い日中は避けて散布しましょう。
- ・ 基幹防除実施後も発生状況を確認し、多発の場合は、補正防除を行いましょう。
- ・ 多発の場合は、1回の防除では効果の出にくい場合もありますので、防除効果は必ず確認しまししょう。
- ・ 幼虫の時期（発生パターン図参照）に防除を行いましょう。
- ・ トビイロウンカは、感受性が低下している薬剤もあるため、薬剤の選定はJAなどと相談して決めましよう。
- ・ 薬剤防除にあたっては、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を確認し、適切な薬剤散布を実施しましょう。

(参考資料)

図1 トビイロウンカ発生予想パターン図



- (注) (1) 発育零点12.0℃、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、有効積算温度(成虫期間100.0℃・卵期間109.4℃・幼虫期間189.4℃)
 (2) 気温はアメダス太宰府を使用(8月30日まで実測値、以降は平年値)。

飛来に基づくトビイロウンカ発生予想パターン図 (令和2年8月31日作成)